

Title	赤外線写真と紫外線写真
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1932
Jtitle	史学 Vol.11, No.2 (1932. 7) ,p.12(158)- 12(158)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19320700-0012">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19320700-0012</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 赤内線寫眞と紫外線寫眞

寫眞術の進歩が絶えず史學の研究を助けて來たことは誰も知る所で、近くは、航空寫眞が歴史の舞臺としての史蹟調査の用に供せられ、活動寫眞によつて史實の動的記録が保存せられることとなつたが、近著の『ロンドン・タイムス』週刊は又二様の新寫眞術の進歩を報じてゐる。

一つは、五月十二日號に掲ぐる遠距離寫眞であつて、英國側なるドーヴァの舊公園から肉眼で殆んど見られない日に、霧を透して佛國海岸を判然と影出したものである。之には long-focus lens に Hford infra-red plate と filter が用ゐられ、コンパスでカメラの方向が定められたのである。その後五月二十六日、六月二日、六月九日の諸號に互りて、續々その技術の成功は示され、英國海岸より Isle of Man を寫せるものの如き約五十哩の遠距離を寫し得るに至つた。

他は、五月十九日號に掲載せる羊皮紙古文書の寫眞であつて、之は前者と反對に赤内線の他端なる紫外線を用ゐ、普通の寫眞では顯出し得ない文書が判明に寫出されてゐる。この實驗は、一九〇八年ドイツの Dr. Meite の寫眞に始まるものであるが、一九一三年 Dr. Koegel は短波の紫外線を用ゐて、抹消した文書を復原し得ることを發見し、その最後の出版物には露出に十八時間を要して作つた印畫をのせてあるが、英の書家 (handwriting expert) W. R. Mansfield 陸軍中佐は、數秒間に之を撮影し得るに至つた。

『タイムス』には、この文書の普通の寫眞と紫外線寫眞とを並べて載せてあるが、前者には文字が現はれてゐない。之は自動自轉車による世界旅行家ジェー・ジル氏がトルコにて英國の古文書であるとして入手した羊皮紙古文書で、他の用途に宛てんがために洗滌して、原筆蹟を削り去らんとしたもので、判明せぬ文字の痕跡を止めたものであつた。

ジル氏は色々試みて成功せず、遂にマンズフィールド中佐に依頼して、銀幕を通して紫外線による光畫を作つたところ、それは英國の文書ではなく、佛王ルイ十六世の署名ある、『トルコの大スルタン』に宛てたもので、Comte de Choiseul de Gouffier の任命を取扱つたものであることが明かにされた。

かくして今迄不問に附せられてゐた羊皮紙上の不明の文字がこの紫外線寫眞によつて今後續々判明することとなれば、それは史學の研究に對しても甚大なる貢獻をなすことであらう。(間崎万里)